12) 齊藤暁, 飯島沙幸, 岩崎優紀, 明里宏文 (2009) 第 2 世代サル指向性 HIV-1 クローンはカニクイザル個体において効率良く増殖する. 第１４８回日本獣医学会学術集会 (2009/09/25, 鳥取).
13) 齊藤暁, 飯島沙幸, 岩崎優紀, 明里宏文 (2009) 第 2 世代サル指向性 HIV-1 クローンはカニクイザル個体において効率良く増殖する. 第２３回日本エイズ学会学術集会 (2009/11/26-28, 名古屋).
14) 齊藤暁, 飯島沙幸, 岩崎優紀, 黒石歩, 中山英美, 塩田達雄, 足立昭夫, 野間口雅子, 俣野哲朗, 明里宏文 (2009) SIV 由来 CA h6/7 loop を持つ第 2 世代サル指向性 HIV-1 クローンはカニクイザル個体で効率よく増殖する. 第５７回ウイルス学会 (2009/10/25-27, 東京).
15) 渡邉朗野, 兼子明久, 西脇弘樹, 宮部貴子, 鈴木樹理 (2009) ニホンザルにおける肝細胞癌の一例. 第18回サル疾病ワークショップ (2009/07/04, 相模原).
16) 須田直子, 兼子明久, 蔵本早希子, 渡邉朗野, 熊崎清則 (2009) 群れへの再導入を目的としたニホンザルの人工哺育 【事例報告】. SAGA12 (2009/11/14-15, 北九州).

講演

1) 明里宏文 (2009/07/12) ウイルスと霊長類：共生のためのウイルス戦略. 人獣共通感染症セミナー 宮崎大学.
2) 明里宏文 (2009/10/13) 霊長類を用いた HIV 感染モデル. 第１２６回 HIV カンファランス 名古屋医療センター.
3) 宮部貴子 (2009/10/28) 霊長類の麻酔・周術管理 . 国立大学法人動物実験施設協議会高度技術研修 滋賀医科大学.
4) 鈴木樹理 (2009/10/27) サル類の飼養および実験を規定する法律. 国立大学法人動物実験施設協議会高度技術研修 滋賀医科大学.
5) 平井啓久 (2010/03/29) 霊長類進化の科学：遺伝子以外のゲノムがもたらす生物の進化. 日本薬学会 岡山コンベンションセンター.

国際共同先端研究センター

霊長類研究所は, 霊長類に関する基礎研究を総合的に推進するために, 国際的かつ先端的な共同研究を推進するための附属施設を 2009 年（平成 21 年）4 月 1 日に新設した. 名称は, 国際共同先端研究センター（英文名称は Center for International Collaboration and Advanced Studies in primatology, 略称 CICASP）である.

日本は先進諸国のなかで唯一野生のサルのすむ国であり, 霊長類学は日本から世界に向けて発信し続けてきた稀有な学問である. 霊長類研究所は, 多様な霊長類研究の国内中核拠点（ナショナル・センター）として, 約 40 名の教員, 約 40 名の大学院生, その他の教職員等を擁して, 自ら先端的な研究をするとともに, 国内の他の研究者と共同して, 年間約 100 件の共同利用研究を推進してきた.

国立大学の法人化に伴い, 全国の国立大学附置研究所のあり方が見直され, 全国共同利用研究所が廃され, 2010 年度（平成 22）年度から新たに「共同利用・共同研究拠点」という制度が始まる. これを契機として, 真に「国際研究所」としての機能の充実をめざしたい. それが本センターである.

これまで日本学術振興会（JSPS）の先端研究拠点事業の採択第 1 号として HOPE 事業（「人間の進化の霊長類的基盤」に関する日独米英伊の先端研究拠点間の国際連携事業）を平成 15 年から推進してきた. これが ITP-HOPE という新事業名のもと平成 25 年度まで継続する. 同じく, JSPS の 21COE に継続してグローバル COE プログラムでも拠点の一翼を担ってきた.

平成 22 年度には, 20 年ぶりの国際霊長類学会の日本招致が決定している. こうした過去の実績をもとに将来を展望し, 国内の共同研究だけではなく, 国際的な共同研究を推進する国際中核拠点（インターナショナル・センター）となることが, 国内外の研究者コミュニティーに対して霊長類研究所が果たすべき責務であると考える.

従来, 研究所は 2 附属研究施設を擁していたが, 平成 19 年度末に 1 附属研究施設「ニホンザル野外観察施設」を廃した. さらに時限で措置していた流動部門・多様性保全分野を平成 20 年度末に廃した. そうした組織改廃を背景に, 従来の使命を継承しつつ新たに「国際共同先端研究センター」という附属研究施設を平成 21 年度当初から開設した. 将来構想としては, 現在シーリング（雇用抑制）で欠員の 2 名と新規要求 2 名の教員合計 4 名と, 再雇用・再配置の技術職員等からなる組織である.

霊長類研究所の大学院生・ポスドクの場合，現状ですでに約 20%が外国人であり，しかもアメリカ・カナダ・フランスなど先進諸国からも，ミャンマー・インドネシア・スリランカ・バングラデシュ・中国といった国々からもきている．そこで外国人教員を積極的に登用し（教員比率 10%超の数値目標をたて），英語で運営される国際的に開かれた組織として，霊長類に関する基礎研究を総合的に推進したい．

現有の共同利用宿泊棟は「国際共同先端研究センター棟」として，平成 20 年度補正予算で耐震改修・機能向上の工事を実施した．当面その 1 フロア（11 室）に相当する広さを新センターにあてることとした

新たな組織を附属研究施設として整備することによって，人間を含めた霊長類の心・体・暮らし・ゲノムなど多様な視点からの基礎研究を，国際的な共同研究として推進し，霊長類学の更なる展開を図りたい．

国際共同先端研究センターが設置されたあと，それに呼応するかのように，本学ではグローバル 30 プログラムによる国際コース（K.U.PROFILE）の設置が決まった．霊長類研究所は，野生動物研究センターと協力して，この英語による教育をおこなうコースを新設した．その結果，外国人教員 2 名，日本人教員 1 名，事務職員 1 名が，特定教職員等として本センターに措置されることとなった．いずれも平成 21 年度中に選考を終了し，平成 22 年度に赴任する．フレッド・ベルコビッチ教授，ダイビッド・ヒル教授，足立幾磨助教の 3 教員と，事務職員の宿輪マミ，である．なお初代のセンター長は所長の松沢哲郎が兼任することとなった．

（文責：松沢哲郎）